

県本部・活動拠点本部会議(8月8日・朝)議事要旨

■決まったこと

●新チーム(鳥取・広島)の本部ロジ手伝い

・鳥取 DWAT(白鳥氏等)は氷川拠点の本部ロジスト(運営支援)業務を補佐・担当する。

・広島 DWAT(河内氏等)は宇城拠点の本部業務を補佐・手伝う。

●チーム交代・引き継ぎ運用の見直し

・第1クールの派遣県に対する全体説明は本部から行ったが、第2クール以降は木村氏等の負担軽減のため、各県チーム内・県内での直接引き継ぎを基本運用とする。

●八代市・福祉避難所「希望の里」の体制移行

・八代市職員2名およびジャパンハート等の人員体制が整ったため、福岡 DWATの夜勤対応を解除し、日中帯(7:00~17:00 / 朝食対応含む)の支援へとシフトする。

1. 各地域からの報告(本日の行動予定、課題等)

●八代地域

・体制状況

→福岡 DWAT(5名:男性3・女性2)が福祉避難所「希望の里」の専従対応。

→拠点側には熊本、広島、岡山、長崎(本日最終・交代)の DWAT が滞在。

・本日の行動予定・課題

→巡回・連携: 広島 DWAT 等と第2地域包括支援センター(街中担当)への連絡・巡回協力。

→アセスメント完了: 残り約5箇所の未巡回避難所(今後等を含む)へラピッドアセスメントを行い、第1巡目をほぼ完了させる。

→日奈久コミュニティセンター1階(第6包括エリア)の課題: 黒木先生(熊本学園大)より「1階に要介護者等の要配慮者が集積しており環境・ケアニーズに課題がある」との指摘があり、念頭に置いた訪問・現状確認が必要。

●宇城地域

・体制状況

→本日は熊本(2名)、大分(4名)、香川(4名)、広島(4名)、全社協(山本

氏)、熊本学園大(新井先生)と人員が充実(計14名以上)しているため、手厚い巡回を展開。

- ・本日の行動予定

→不知火(白)地域: 未面会の利用者対応(不在時は施設職員から聞き取り・体制確認)。

→小川地域: 個別アセスメントの継続と段ボールベッド搬入に伴う環境確認(DCATとは別行動で実施)。

→三角地域: ラピッドアセスメント後の再訪問(外国籍避難者や障害者のフォロー)。

→宇土地域: 避難所が集約される「武道館」の状況確認。

→美里町(4避難所)の状況確認: 「支援物資・資金が届いていない」等の報道懸念に対し、人員的余裕を活用して4施設(B&G海洋センター、役場庁舎、総合体育館、中央庁舎)の様子見・情報収集訪問を実施。

●氷川地域

【氷川拠点】

- ・本日の行動予定

→公民館の24時間(夜勤)対応検討: 氷川町公民館より夜勤対応の協力打診あり。佐賀チーム、本日10時着の鳥取チーム、熊本DWAT(米田氏)の3者で対応可否を含め協議予定。

→新避難所の状況確認: 「宮原福祉センター(母子保健避難所)」が新設されたため、会議後に佐賀チームが現地状況の確認・アセスメント(ラピッド登録等)を実施。

→午後: 残り2箇所の避難所のアセスメント完了、および前日JDAT(災害リハチーム)へ繋いだ2件の経過観察・確認訪問。

- ・課題等

→公民館の24時間体制化についての具体的な詳細・開始時期の把握(情報収集継続)。

3. 確認事項・共有事項

●避難者の健康管理(エコノミークラス症候群・DVTリスク)

- ・避難者の深部静脈血栓症(DVT)や足の浮腫のリスクが高まっているため、JDAT(災害リハ)等と連携して体操・予防運動等の改善に取り組む。

●支援者(DWAT隊員)の体調管理・疲労度

- ・長期派遣者や八代等で活動する隊員の疲労が蓄積している。体調崩す前に早め

の撤収、夕方ミーティングへの車中参加など、体調管理を最優先とする。

●資材配送

- ・本部・山本氏より氷川拠点へプリンターおよび用紙が本日中に届けられる。

●支援者登録手続き

- ・オープンLINE チャット等で案内されている「支援者登録フォーム」への未入力者は、速やかに登録を完了させる。

●車中泊・在宅避難者調査票の重複に関する議論

- ・熊本県が支援団体向けの車中泊ヒアリング項目案を作成中。
- ・黒木先生より「熊本地震の経験に基づく調査票作成が先行して動いており、重複がないか確認したい」との提起あり。

4. 今後の方針

●避難所ラピッドアセスメント第1巡の完了とデータ入力補助

- ・本日～明日午前中を目処に各エリアの避難所1巡目を完了させる。アセスメントデータの入力・処理が困難な場合は本部にタスクを回して分担する。

●車中泊・在宅避難者支援に向けた体制整備（次のフェーズ）

- ・支援団体向けヒアリング項目案に対し、各拠点の福祉的視点（追加聞き取り項目等）をチャット等で本部へ集約・フィードバックする。
- ・全社協、士業団体、KVOAD（熊本災害ボランティア等）、各専門職団体等と裏側で連携・打合せを進め、数週間後に向けた在宅・車中泊避難者のニーズ把握および巡回支援体制を構築する。

●新規支援地域への丁寧なアプローチ

- ・これまで保健医療福祉の手が入っていなかった地域（美里町や未訪問の避難所・在宅等）に新たに入る際は、地域住民や既存関係者に対し摩擦を生ませないよう、丁寧な初動アセスメント・配慮に努める。